

IV-345 旧東海道の交通空間としての活用に関する基礎的研究

立命館大学大学院 学生員 田中正浩

立命館大学理工学部 正員 塚口博司

J R 東海ツアーズ 正員 能川香織

1. はじめに

今後の街路整備は、単に交通処理を目的とした施設整備を行うだけでなく、アメニティの高い文化性の感じられる空間としての整備が望まれる。歴史的な資産を有する都市にあっては、これをうまく活用することが求められる。このため、伝統的な建物・町並み等の歴史的資産を保全・活用することによって、まちづくり・みちづくりに取り組んでいる都市が増えている。本稿ではこのような都市の中から滋賀県草津市を取り上げることにした。

2. 調査の概要

草津市は近江盆地の南部に位置し、旧東海道と旧中山道との分岐点であったので、本陣や脇本陣をもつ宿場町として栄えてきた。写真-1に草津市内の旧東海道を示す。歴史的な景観が残っている区間もあるが、商店街等となってその雰囲気が少ない区間も多い。本稿では、草津市内の旧東海道を対象として、旧街道に対する認識、歴史性を生かした街路整備等に関して、住民意識調査を実施した。調査対象は旧東海道に面している世帯ならびに旧街道からおよそ500m程度までに位置する世

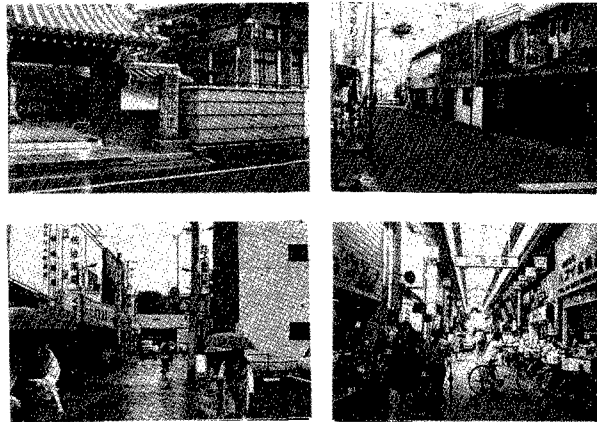


写真-1 草津市内の旧東海道

帯である。調査は1995年1月に実施し、180世帯から401票を回収した。世帯でみた回収率は90.0%である。アンケートの設問には、現在の道路状況、旧街道の認識、街路整備の意向などを記載した。

3. 旧街道の認知状況

草津が旧東海道の宿場町として栄えていたことを知っている者は9割を超えており、ほとんどの住民がこれを知っているが、旧街道の位置を正確に把握している者は63%に留まっている。このような認識は年齢と関係しており、図-1に示すように高齢層の方がよく認識している。旧街道の位置を知っている者の中で、旧街道を意識して通行している者は60%強である（図-2）。このため、旧街道を「好きな道」として指摘する住民がかなり多い。しかしながら、旧街道が歴史的な道として生かされていると考える者は20%強に留まっている（図-3）。

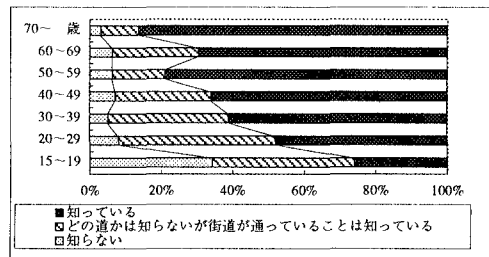


図-1 年齢別にみた旧街道の認識状況

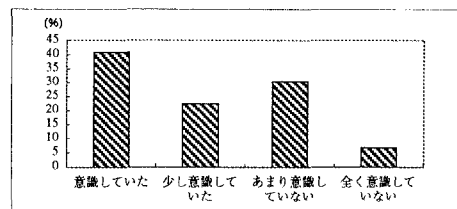


図-2 通行時の旧街道に対する意識

4. 旧街道の整備の方向

歴史的な資産を生かした街路整備の必要性に関する意識について述べる。図-4に示すように、約半数の被験者が歴史的な街路としての整備を望んでおり、望まない者はおおよそ1/4である。このような整備を望む者は、歩行者が安全・快適に歩ける街路を望んでおり、具体的には、自動車の通行規制、交通静穏化策、ベンチ等の休憩施設整備等が要望されている。歴史的な空間としての整備を望まない者は、図-5に示すように歴史性よりも利便性を重視しており、街路拡幅や自動車交通の円滑化策を要望している。なお、歴史的街路整備の方策として具体的に提案されているものは、図-6に示すように、電柱の撤去、案内板の設置、建物や広告・看板のデザインの工夫等となっている。

次に、歴史的な資産を生かした街路整備の必要意識がどのような意識と関係しているのかを分析してみたい。ここでは、上記の街路整備の必要性の有無を外基準とし、自宅前街路の安全性、快適性、利便性、ならびに景観に関する満足感を説明変数として、数量化理論Ⅱ類による分析を行った。図-7に示すように、歴史的な街路として整備すべきだとする住民は景観ならびに快適性に不満を持っており、これは旧街道が本来有する資質が十分に生かされていないとの意識から生じていると思われる。逆に、安全性や利便性に不満を持つ者は、歴史的な街路としての整備よりも、安全・円滑な交通空間としての整備を望んでいるようである。

5. まとめ

街道沿いの住民は旧街道の活用として、歩行者系街路などの歴史的環境の修復を望んでいる者が多いが安全性、利便性などの生活環境の向上を望んでいる者もある。歴史的街路整備を考えるにあたり、この生活環境を改善するためには代替交通手段の整備、防災対策などの街全体の見直しが必要であろう。また、保全や修復という観点だけでなく、街づくりの活性化をはかるためにも、歴史性を活用した魅力ある街づくりという視点が必要であると考えられる。

今後、以上の分析を発展させて、旧街道を生かした街路整備について具体的に検討していきたい。最後に、調査に御協力いただいた草津市都市計画課ならびに同街道文化情報センター各位に深謝する次第である。

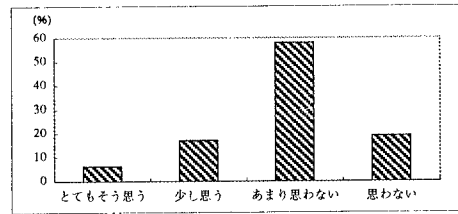


図-3 歴史的な道としての生かされ方

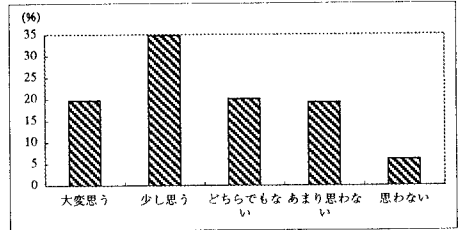


図-4 歴史的な街路としての整備必要意識

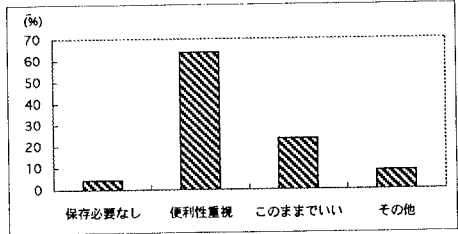


図-5 歴史的整備不必要の理由

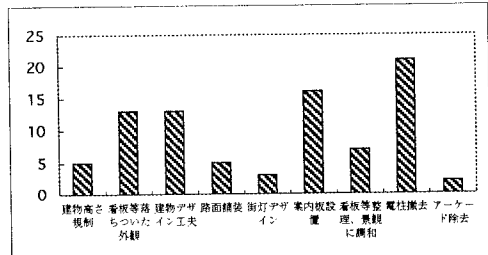


図-6 歴史的街路整備において最も取り組むべき施策

アイテム	カテゴリー	カテゴリースコア				偏相関係数
		-2.0	-1.0	0.0	1.0	
安全性	満足					0.133
	どちらでもない 不満					
快適性	満足					0.129
	どちらでもない 不満					
利便性	満足					0.183
	どちらでもない 不満					
景観	満足					0.222
	どちらでもない 不満					

外的基準：歴史的な街路空間整備の必要意識 有り (0.172)、無し (-0.402)

図-7 歴史的街路空間整備に関する意識と街路環境満足度の関係